



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 10 月 3 日	
所属部局・職	野生動物研究センター 研究員
氏名	吉田 弥生

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
タンザニア共和国、アリューシャ	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
拠点形成型事業 タンザニアワークショップ参加	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 26 年 9 月 20 日 ~ 平成 26 年 9 月 30 日 (10 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
Tanzania Wildlife Research Institute, Dr.Keyyu	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>タンザニア共和国 アリューシャにて、第三回国際ワークショップ”Tropical Biodiversity and Conservation”に参加および発表を行った。多くの海外の研究者との有意義なディスカッションを行うことが出来た。</p> <p>また、フィールド視察では多くの野生動物とアフリカ東部特有のアカシア木を中心とするサバンナ生態系を観察する事が出来た。サバンナに棲息する多くの野生動物や植生は、これまで訪問したことのある熱帯雨林の様相と大きく異なり、興味深い視察となった。特に鳥類の分布や色彩は、特有であると感じた。</p> <p>旅程の後半では、ザンジバル島(ダル・エス・サラーム東部沿岸)を訪問し、イルカウォッチングに参加した。船上および水中の観察により、ミナミハンドウイルカではないかと推測されるが、背びれの形がやや鎌状であり、日本近海のハンドウイルカと類似する特徴も持つ。</p> <p>文化的また歴史的、および生態的にも非常に興味深い地域に訪問することができ、有意義な渡航となった。</p>	
	
カラフルな色彩を持つ鳥(種名 不明)	岩で体をこするシマウマ
<b>6. その他</b> (特記事項など)	